

野菜

水田の機能を活かした「サトイモの湛水栽培法」

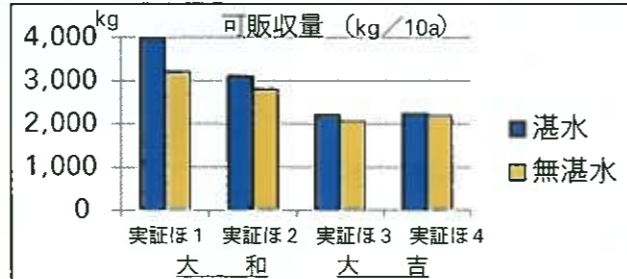


- 鹿児島県農業開発総合センターで、畝間に水を流す「サトイモの湛水栽培法」が開発されました。
- 特徴
 - いも個数、収量が2割増収
 - 病害（乾腐病菌）、列開症、芽つぶれ症を抑制
 - 親いもの品質が向上し、親いも活用による6次産業化が可能（大吉）
 - 適する水田と排水対策

排水の良い乾田が導入条件です。減水深が小さく、還元状態が進んだ水田では収量は少なくなります。排水不良水田では、サブソイラー等での耕盤破砕が必要です。
 - 具体的な湛水栽培技術
 - 湛水開始時期：本葉が5枚程度に生育した6月上旬頃
 - 湛水量：畝間に水深5～10cm程度を維持するように少しずつ流す。
 - 湛水終了時期：8月末を目処に3ヶ月程度
 - 施肥：肥効調節型肥料を活用した全量基肥が効果的
 - 湛水栽培親いもの特徴（大吉）
 - でん粉含量及びポリフェノール含量が高い。
 - えぐみが少なく良食味
 - 機能性成分が子いもと同様に含まれる。

これらのことから、今まで廃棄していた親いもをパウダーやペースト等に一次加工し、それらを活用した加工製品の開発で6次産業化が期待できます。

さつま町で実証ほを設け、現地での実証を行いました。



区	実証ほ1	実証ほ2	実証ほ3	実証ほ4
湛水区	3,979	3,107	2,211	2,247
無湛水区	3,201	2,798	2,065	2,196

品種、ほ場によって差はありますが、湛水栽培によって増収することが実証されました。実証ほ1では、約2割の増収となりました。裂開症や芽つぶれなども、湛水することによって減少しました。

経済連で新たに作られた緩効性肥料をブレンドした湛水さといも専用肥料の実証ほも設置しました。慣行肥料に比べ、大和で1.5割、泉南中野早生で約1割の増収となりました。

水稻

新しい育苗箱施用剤の活用で防除回数の低減を！

令和元年作付分から、ウンカ類に効果の高い有効成分「トリフルメゾピリム」を含む農薬が、各種混合剤で発売されています。



トビロウンカによる被害



紋枯病による被害

【特徴① ウンカ類に長く効く！】
この成分は、これまでの薬剤に抵抗性をもつウンカ類にも効果を発揮します。育苗箱に施用することで、トビロウンカ等のウンカ類に対して長期の残効（70日程度）が発揮されるため、防除回数の低減に役立ちます。

【特徴② 紋枯病対策もできる】
いもち病の他に近年散見される紋枯病にも、長期残効性がある剤を組み合わせた箱粒剤を選ぶことで、さらに防除の効率化が期待できます。

その他、稲こうじ病に効果のある成分を組み合わせた箱粒剤も発売されています。

【使用上の留意点】
農薬は、管理するほ場の病害虫の発生状況を踏まえて選定してください。
販売店によって取り扱い農薬が異なります。

「トリフルメゾピリム」を含む箱施薬剤一覧（令和元年12月25日現在）

農薬名 (成分名)	メーカー	は種 同時	病害虫			
			クガ類	チョウ目	いもち	紋枯
フェルテラゼクサロン箱粒剤 (トリフルメゾピリム, クロラントラニルプロール)	北興化学	○	○	○		
ゼクサロンパディート箱粒剤 (トリフルメゾピリム, シアントラニルプロール)	クミアイ化学	○	○	○		
防人箱粒剤 (トリフルメゾピリム, クロラントラニルプロール, イソチアニル)	協友アグリ	○	○	○		
ビルダーフェルテラゼクサロン箱粒剤 (トリフルメゾピリム, クロラントラニルプロール, プロベナゾール)	北興化学	×	○	○		
サンスバイク箱粒剤 (トリフルメゾピリム, クロラントラニルプロール, トルプロカルブ)	三井化学	×	○	○		
アンコール箱粒剤 (トリフルメゾピリム, クロラントラニルプロール, トリシクラゾール)	クミアイ化学	×	○	○		
ブイグットフェルテラゼクサロンL粒剤 (トリフルメゾピリム, クロラントラニルプロール, チアジニル)	日本農業	×	○	○		
スクラム箱粒剤 (トリフルメゾピリム, クロラントラニルプロール, イソチアニル, ベンフルフェン)	北興化学	○	○	○		
箱粒新粒剤 (トリフルメゾピリム, クロラントラニルプロール, イソチアニル, フラメトピル)	協友アグリ	×	○	○		
フルスロットル箱粒剤 (トリフルメゾピリム, クロラントラニルプロール, イソチアニル, ベンフルフェン)	クミアイ化学	○	○	○		
サンエース箱粒剤 (トリフルメゾピリム, クロラントラニルプロール, トルプロカルブ, シメナゾール)	三井化学	×	○	○		



発行：北薩地域振興局農政普及課 令和2年2月発行
 【本所】薩摩川内市神田町1-22 TEL 0996-25-5533 FAX 25-5672 メール：kita-fukyu@pref.kagoshima.lg.jp
 【さつま町駐在】薩摩郡さつま町虎居704-2 TEL 0996-52-4515 FAX 52-4517 メール：kita-satuma@pref.kagoshima.lg.jp

次代の川薩農業を担う新規就農者・青年農業者への支援

ニューファーマー営農塾

新規就農者や青年農業者の技術力向上と経営感覚の醸成を目的に、指導農業士会が農政普及課と共催し、全体研修や部門別研修（水稻、茶、畜産、野菜、果樹、花き）を行っています。

全体研修会

今年度の全体研修会は、指導農業士がどこでどのような経営をしているのかを研修生に知ってもらい、気軽に相談して欲しいという目的で、さつま町の指導農業士4名のほ場や畜舎を訪問しました。研修中は、指導農業士の助言に加えて、参加者同士の交流も図られました。



部門別研修会

7月の水稻部門の研修を皮切りに、6部門で研修会が実施されました。室内での座学や情報交換会、研修生のほ場での現地検討など、部門ごとに研修内容を企画して実施しています。ほ場検討では、研修生が課題解決に取り組んでいる内容等について参加者と意見交換しました。



川薩地区青年農業者会議

11月22日に川薩地区青年農業者会議がさつま町で開催され、農業青年クラブ、指導農業士会、農業経営者クラブ、関係機関等約80人が参加しました。
 プロジェクト発表では、ぶどう(クイーンニーナ)のLED光照射による着色促進の取組が発表され、輝けトークでは、新規就農者2人と薩摩中央高校生1人から将来の夢・目標など熱い思いが発表されました。
 また、川薩地区農業青年クラブから先進地研修の報告と、本年度作成したPR用法被のお披露目がありました。それぞれの発表に対し、参加者から質疑や助言がなされ、実りの多い会となりました。



農業青年プロジェクト発表



輝けトーク・意見発表

○認定者 紹介

青年農業士に、新たに2名が認定！

地域農業振興のリーダーとなり得る青年農業者として、令和2年2月、青年農業士に新たに薩摩川内市1名、さつま町1名が認定されました。



松木 耕平 さん
青年農業士
野菜
さつま町



山口 昌太 さん
青年農業士
果樹
薩摩川内市

川薩地域農業を支えるリーダー、新たに3名が仲間入り！

川薩地区では、女性農業経営士42名、指導農業士17名の皆さんが活躍されています！令和2年2月、新たに、薩摩川内市1名、さつま町2名が認定されました。



鍛冶屋 公貴 さん
指導農業士
水稻
さつま町



山下 裕子 さん
女性農業経営士
茶
薩摩川内市



山内 美千代 さん
女性農業経営士
畜産
さつま町

○トピックス ~最近の動き・行事・出来事など~

川薩地区担い手組織研修会、開催！

さつま町で、11月22日に川薩地区農業青年クラブ、川薩地区指導農業士会、県農業経営者クラブ川薩支部が合同して「川薩地区担い手組織研修会」を開催しました。

今年度は、県農政課の菓子野課長から日本農業をめぐる国際環境と県政について情報提供があった後、人手不足にどう対処するかというテーマで整理収納アドバイザーの遠矢さおり先生からお話を伺いました。

「最近のデータでは、就職先を選ぶ際に職場がきれいかどうか重視されている」、「整理整頓はビジネスツール」、「探し物をしている時間は仕事をさぼっているのと同じ」、「時間を作るために整理整頓する」など、データや事例を交えながら「職場の整理整頓」が業務の改善、人手不足につながるか分かりやすく説明していただきました。また、どのようにすれば整理整頓がスムーズにできるか教えていただき、会場からは、自宅に戻ってすぐにでも実践してみたいという感想が出されていました。



川薩地区農業青年クラブ先進地研修を実施

9月10日～11日、クラブ員6名が、宮崎県で竹を使った土壌改良資材を製造しているメーカーや熊本県で高級柿「太秋」を生産している果樹生産法人を研修しました。地域に豊富にある竹活用のアイデアや、消費者に喜ばれるための農産物の生産にける経営理念を学びました。

また、熊本市農業青年クラブと情報交換を行い、県外青年とのつながりを築くことができました。



竹を活用した土壌改良資材等製造メーカー



果樹生産法人での研修

○トピックス ~最近の動き・行事・出来事など~

川崎アゼリアで薩摩川内茶をPR。消費者の評価は良好

12月7～8日に、川崎アゼリア(神奈川県)でかごしま物産展・百円茶屋が開催され、薩摩川内市茶業女性部「茶楽」の会員5人が薩摩川内茶のPR活動を実施しました。百円茶屋では、薩摩川内市産の普通煎茶を提供し、約850人の消費者にお茶と鹿児島のお菓子を楽しんでいただきました。

「香りがすごく良く、おいしい」等、評価が高く、お茶の売れ行きも好調でした。

茶楽では、今後も継続して、おいしいお茶を消費者に提供していきたいと思えます。



薩摩川内茶のPR・販売



百円茶屋での薩摩川内茶のPR

中津川採種生産組合50周年を迎える

中津川採種生産組合は、県内唯一の普通期水稻の種子生産指定を受けた昭和45年以降、50年間に渡り県内の普通期水稻奨励品種や適品種の全種子を生産してきました。その間、徹底した異品種混入防止対策と発芽率等の品質基準をクリアし生産された優良種子は、30品種以上になっています。

今回、創立50周年を迎えたことを記念して、12月6日に50周年記念碑の除幕式と記念式典が開催されました。式典では、歴代組合長6名にこれまでの功労に対する感謝状が授与され、そして、現組合長から「今後も良質な種子を生産していきます！」と力強い宣言がありました。



種子生産を行うさつま町中津川地区



記念碑の除幕



組合50周年記念式典

薩摩さみどり会が首都圏の仕上茶の流通等について研修

11月28～30日に、薩摩さみどり会が先進地研修を実施しました。会員8人が参加し、首都圏における仕上茶の品質や流通に係る実態を調査しました。お茶専門店では、単一農場、単一品種での販売や、お茶を使ったスイーツや喫茶等、多様な販売形態があることが分かりました。また、日本茶アワードの第3次審査に参加し、プラチナ賞20点の審査も行いました。

今回の研修を通して、売り方によっては、お茶は販売の可能性が広がることを実感できました。



首都圏におけるお茶の販売方法の調査



日本茶アワードでのお茶の審査